

昭和17年9月1日（火）

二百十日。晴れ。鶴市神社祭典。中殿を通過して本町より仲町に出て、遂に当町を通らざりし。昨年も同様と覚ゆ。坊や夕方、湯に行きお祭り行列に遇い、其の騒擾に驚き泣き、或いは神主が馬跨り通るを喜び、ウーマ々々を連発すと。森田さん妹を連れて来たり。豊田校の六年に転校せしむる由。切手請求せず。此日数回庄さんと交渉す。

昭和17年9月2日（水）

晴れ。昨新開の堤防修理に、各町より奉仕員を出すこととなり抽籤とす。ミワさん幸に不中。此日も同様抽籤にて奉仕員を決定。今回も不中。坊や事務室に来たり。お金を引出し、葉書を撒き、抽斗を開けて何でも取出す。夜に至り、久子悦子を連れ販り来る。坊やとミワさん駅に遊ぶ。新たに飯を炊き食事を薦めらる。栄町長来たり。耶馬溪局長、告発したる由を語る。神経痛にて仕事をするに苦痛なる故、部会長辞職すべき旨話さる。切手売捌き人一名、当局受持に依頼あり。承諾す。森田さん豊田校へ妹を入学せしむる為、市役所行き。午後までかかり販局。

昭和17年9月3日（木）

晴れ。此朝より森田さん早起き。妹さんを学校へ送り込む。6時より掃除。勤労奉仕の婦人連の姿を見る。如何なる理由か、下痢二回。痔甚だ痛む。夕飯うどんを頂く。切手類請求。貯金増進状況発送す。夜甚だ眠く、9時引上げ。湧かして貰った湯を使用、沐浴。10時前寝床。坊やは7時過ぎ割合早く寝む。

昭和17年9月4日（金）

午前3時半頃雷鳴。間もなく降り出し、次第に豪雨となる。5時頃歇む。掃除は街路分見合わす。水曜日に於ける窓口取扱い数報告を調製。午後5時頃より再び降雨。当麻緑より金の無心あり。中津局監査員、函場切手売捌き高調査に来る。坊や午前中神詣での飯途、道路に下り立ち遊び、大分疲れたらしく11時頃より眠り2時を過ぐ。起した午後3時頃、乳をやる。此日は夕食も早く食ふ。坊や3時に飯をやり、6時に牛乳をやる。9時を過ぎ眠らず。余無理に眠らず。時に9時半。午後より坊やの髪を刈る。坊主頭となり頭、大が分かる。

昭和17年9月5日（土）

晴れ。切手類充実しあるも、印紙5銭売切れの姿なるを以て、切手類に対しても請求せり。特に満州国建国10周年記念切手は、中津局より割充。5銭300、20銭10を其の儘請求せり。此朝、昨差出し小倉行き書留小包の、名宛て変電報請求あり。請求書用紙なく便宜調製、一円十銭徴収。午後一時再来。名宛て変更に対する回答の有無を訊ねたるに付き、余は、今に通知なきを見れば大丈夫、変更されたものと思うと答え置きたる。午後7時に至り、配達済みの電報ありと、中津局より通知呉れたり。引受帳には高田末松とある為、中津局取締りに質すも知らぬと云ふ。同人が午後1時来局の際、巖の話出てたるより巖に聞けば分かると思ひ、木内主事の電話で呼出して貰ひ、高口末松と判明し、同人を尋ねて7時20分出発す。此の夜7時半より臨時隣保班会を開き、必ず男子の出席を要望あり。何分初めての道、暗さは暗し大分手間取りたるも漸く判明。事情を述べ諒解を求む。飯局8時

半。坊や豊田町まで来たり待ち居る。班会に不出席の不得已に至る。会合の要件は、新開に奉仕作業を男子にして貰ひたいとのこと。余を除外したるものの如し。

昭和17年9月6日（日）

此日10時より、耶馬溪倶楽部にて第一回部会開催に付き出席。栄町局長司会の下に議事を進む。途中、今津局長別室に余を招き、部会長を余に薦む。余は極力辞退す。席上、栄町より辞任の通告ありし際、一切を今津局長に一任、会長と打合わすこととなる。昼食西洋料理、一人3円。1時半閉会。赤坊会に久子11時来たり。昼食を馳走し、横田氏と三組第一着に検査し貰ふ。恰度、余会議より飯局と同時に、久子夫れまで待ち居り飯宅せり。悦子連れ居る。和博も一緒に来ることを希望し、泣き居りし由。頃日、朝の掃除は午前6時となる。所得税徴収関係、報告を了す。

昭和17年9月7日（月）

晴れなるも曇りがち。午後野口氏より南瓜届く。十一個あり。角野医かかり4時半行く。既に先生入浴中。明日にして呉れとあり、販る。夕飯早くより出来て居り、夕食を済まして行きし為、遅れたるもの。此日証券保管多し。鉄回収の金を債券にて交付ありたる為なり。緑宛てに10円送付せり理由を、死去せし叔母へ供養の為と称す。此の夕、坊や入浴。販りての報告に、下駄箱の下駄を悉く表に放棄し、帰る客が販れぬ始末。次いで着物の籠を一々中より取出し、誰の所有か分からぬと云ふ有態。坊やは済ました顔して、自分の悪口を聞き居たり。

昭和17年9月8日（火）

余の誕生日と云ふて団子作ることになりおる。切手請求、受取に行く。為替窓口混雑（配列換えして、窓口より正面に見て事務を執る従来の配置を換え、横に腰かけ、加うるに人員の減少を期する為、各窓口を切り詰め、各事務別より受払いと云った仕事の種別に分括することに試行）の為、裏から事務室に入り、序でに国債の問題に及ぶ。日出町を計算に入れずに配付したと云ふ。除け者になった形。もう今期は国債も債券も手持ちなしとあり。其の旨、角野医かかり行く序でに、庄さんに咄す。同氏は既に計画書を出してある藤田氏に依つて、と云つて咄す時、藤田氏見ゆ。奥さんに渡してあると云ふ。歸りて聞けば、藤田氏から、市役所より訂正のあるまで国債は受取らずに保留して呉れと云うので、其の儘にしてあるとのことに、再び庄さんに至り、あの計算書を基準に必要な国債額面を集計してよいかと談じ、差支えなしとあり。漸く進行し得ることになれり。巖来たり。相談ありとて座敷にて、秀樹が皆の衆より讃えられ居る旨を述べ、清瀬氏等が、あの家に呉れたのかと質問せられたるとき、「預けた」と答ひたる由。それから曰く、「惜しいこと」したと云う。余、大いに巖の不心得を詰る。妻問題では、松吉氏より中村四郎氏の長女に交渉するとあり。金谷にも世話する人ありて云々。余は「あちこち」と候補者を狩り集めつつある巖の心理状態を忖度（そんたく）して、遺憾限りなかりし。一時間以上を閲して、余の団子を作る時間が遅れ大急ぎで着手。盆に半分残せし粉と、他に一升を混淆。虫が出て居るに驚きたり。余り長く蔵へ置かれぬと思ひたり。篩にて篩ふて、冷水にてこね、沸騰した

湯に入れ取り出して更にこね、嘗て隣組より交付の白ささげを土台に、ぜんざい式に餡を作り、6時半漸く出来たり。森田氏にも分配す。歯医者通い、此日にて打止め。

昭和17年9月9日（水）

印紙二百円の請求窓口分に対し、本朝他のものと一緒に請求。電話にて逓信局に交渉。国債の交付を承諾して貰ふ（此の交渉はミワ氏に一任）。朝、昨夜の団子を頂く。残りを局員に分配す。角野先生に療治代を質せば、5円なりとあり。半年近くも療治して貰ひ、余り廉いと驚く。団子は昼食の際まで腐敗せざりし。驟雨性の降雨あり。貯金切手窓口売り、10円欠損あり。

昭和17年9月10日（木）

此朝角野さんに、5円現金と報国5円と持行く。報国は御礼のつもり。逓信局より国債到着。中津局より積立貯金を日出町に奨励せんとするに対し、諒解を求め来る。承諾し遣る。猶、債券五百円持参。区長代理に受領方を交渉したるも、受取らざりしとて相談に来る。国債到着せば考慮して貰ふと挨拶し置きり。百億貯金功労者表彰状、大臣記名にて到着。盆は記念品なるが、直に角野氏に交付せしむ。貯金切手予約分、交付未済あり。立替えの上全部完了せり。道子より手紙。飛白（かすり）にて洋服を坊やと淳に。パンを作りし由。小包にて送付の話。米は粗悪の由。余が帰れば米を持参せよとあり。夕方驟雨性の少雨あり。坊を連れ駅に半時間遊ぶ。

昭和17年9月11日（金）

此の朝、花屋庄さんに国債を持行く。曩と一緒に区長代

理を訪ふ意向らしかりしも、考ふる処ありしか、余独り行けと云はる。債券は五百円。昨日区長代理は受取らざりしを、余庄さんと相談し、中津局より債券も受け取ることとし、ミワさんを煩わし、中津局より受取り来らしめ一緒に持行く。区長代理は商内（あきない）の方、多忙を極め居るも、割愛して貰ふて話をつく。同代理、庄さんと数回往復して受取り呉る。切手請求受取りは、午後一時過ぎ出掛く。鐘紡より工場主任、島崎某来局。払済み証書持参。事情通告、猶、切手類の売捌きを申請せんとする旨申出らる。切手受取りの序でに、木下主事に其の事を話し了解を求む。此の頃より黒雲漸く漲り、降雨の惧れあり。帰局後乾し物を蔵ふ。4時を過ぎ雷鳴、臙（やが）て激雷一閃。家屋震動、電燈消滅。2時間余点火せず。坊や雷雨後湯に行く。飯途可なり降らる。電燈点火まで横臥し座敷に居る。湯より帰られてからも起きたり寝たり。蚊遣り香求め来らる。午前中、道より小包届く。パンは半分汗かき、蒸し直したるも恢復せざりし。夕食素麺せしも、折角のパンを腐敗せしむること口惜しく、腐敗の気味あるものでも食ふこととす。素麺も二杯頂く。幸に腹加減異状なきを得たり。午後、為替の机、槻木（つきぎ）にて調製持参さる。成程立派なるか、価格は20円40銭とあり。決して安いことはないと思ひぬ。横田氏は箝め込みて間もなく帰らる。

昭和17年9月12日（土）

曇り。蒸し暑く、午後より降雨。前田氏、午後より岩尾氏に窓口を任せ早退。友達と彦山登り計画。3時の汽車で、新設彦山駅まで乗車の予定。降雨のため中止。明朝出発と改定の由。此日横田氏、水屋簀の子板調製。炊事

場の棚吊り、水槽の蓋、塵箱の嵌込み板等を調製。午後3時、お茶及び菓子を出し土産に持行かしむ。余は対手せざりしも、ミワさんと少時内所咄をなしたる由。何処の家でも、色々混入った事情はあるものと思はる。

昭和17年9月13日（日）

窓口硝子、二階の窓硝子も、此の朝大きな音を立てて二枚破摧（はさい）するを掃除の際、認識。此の分も一緒に入れ換え、硝子代3円18銭。窓口硝子は一分厚さにて、余の机上敷物にして居りしもの。之を細かく截ることは惜しいので、余の小さな硝子の敷板をミワさんにやり、大きな窓硝子を余の分にし、硝子窓は新調のこととす。此の夜8時半過ぎ、裏の理髪屋にて理髪営業は9時までとて、大急ぎにて終了す35。此の夜、横田政恵さん計算書持来。41円支払ふ。机は槻（つき）なるも20円40銭は高いようなり。木材は7円20銭かかりしと云ふ。母堂の部屋に戸を新調せしことは、5円かかりしとはいへ嬉し。

昭和17年9月14日（月）

昨夜、臨時費請求書作成。本朝発送。貯金関係は六七八、3ヶ月分の報告を、ミワさんに出して貰ふ。道子より手紙。返事発送。緑より昨日、金子受領の返事あり。女の子は前借りして子守りにやり、女中奉公にやる。十七才の女を頭に七人居るらし。此日、角野さんより土曜日菓子沢山頂きし御禮に行つて貰ふ。前田さん彦山登山を中止せし由。坊や数日前より風邪気味、鼻水垂らし居る。克く泣く。ミワさん夕方、駅に連れ行かる。7時半寝る。

昭和17年9月15日（火）

午前3時頃より降雨。午前中、殆ど小歇みなく降り続く。午後より歇む。神様の例祭。為替の机の上に雨漏り、馬穴に一杯溜まる。2階の柱を伝ふて漏るらし。気温降下、時々事務服を着る。蚊は猶居る。昼寝の坊やの頭が赤く張れ上がるもの、一ヶ所。一兩日前まで暫く廃止して居りし蚊遣り香を求め、夜のみ樹て、座敷と事務室に配置す。湯に行かれ、別に余の為には、別に湯を沸かして下さる。昨、申又洗ふ。此日の雨にて乾かず。野辺良助より葉書来る。満州国建国10周年記念の切手、売捌く。ラジオ等で盛り沢山の慶賀行事あるも、記念切手の売行きは一向捗まじからず。中津局は殆ど売れた由。

昭和17年9月16日（水）

概ね晴れ。冷氣頓（とみ）に加わり、事務服（今度逓信局より求めし国防色の分）着用、終日汗せず。坊やミワさんに負われて二三回外出。パンを買いに行かれ、相当時間ありと云ふに、一度販りて二度目に行けば売り切れとなる。之に憤慨して、自宅で造ると主張し止まず。任意にし製造上の要点を注意したり。出来栄え中程度。4時に夕食の際頂く。坊も喜んで食す。嫌になると棄てらる。御飯を手掴みし頬張る。終へには手を振り廻して四方に散乱す。後始末が厄介なり。頃日、腹を壊さぬので、急に局員から「肥えた」と云はる。最早2貫目を越ゆるならん。横田政恵さん来たり。計算書調製す。新調の出来合いの戸は5円と称し居りしに、5円50銭と記入し、檜の木材は6銭とありしを12銭に記入したる等、頗る不当の賃銀と思はるる点多し。日役は4日とあるも、是れ亦仕事は2日、他は遊び居ると思はる。為替5時まで。

昭和17年9月17日（木）

午前3時頃より降雨、黎明に及ぶ。昨日竹田太陽堂、隣家の林へ、朝2時頃泥棒が入り、前者は160円、後者は30円盗まると。夕方ミワさんに咄し、見舞いせしむ。焼けての後の火の用心的に、昨夜から戸締まりに注意することとなる。切手の売行き鈍り、函場分一のみ。朝計算書半分作成しありしを、余書き副ふ。午後より降雨。終日、陽照らず冷ゆ。

昭和17年9月18日（金）

午前3時頃より降雨。5銭切手皆無、請求一千元。一週間、買受け請求せず。何れも珍し。朝は雨を冒して8時半中津局に払込み。午後は多少気温上昇、天候も恢復して品物を請取る。5銭切手一万請求。穴瀬に四百持行く。逓信局より電話。鐘紡小為替の事件なり。此日鐘紡休業、埒明かず。パン二回分求め販らる。宮前さん流に、、、夕食素麺。坊や午前5時半起床。神様に行き10時より1時間程寝る。更に、午後1時頃より3時まで寝る。起きて素麺一杯平らぐ。午後曇り時々晴れ。洗濯物は大方乾く。降雨の為、窓口の雨漏り。馬穴二つ置く。

昭和17年9月19日（土）

前日同様、朝3時頃より降雨。5月時の雨に似て、霧の如きものの降り続く。遂に霽れ間を見ず。大蒜を求め来らる。之を以て油味噌を造りたり。頃日数ヶ月間休止の姿なりしが是れも珍し。此日、屋根師を頼みに横田氏の前の左官を訪ふ。前約一年分ありと云ふ。大工と云ひ左官と云ひ、今は其の人なきに苦しむ。暴風雨後の斯うした

人々の需用は、頗る多方面に渉り、到底応じ切れぬものありしことは想像に難くなし。遂に家主に直接突当たり、人さえ世話して頂けば、労銀は自分より支払ふべき旨通告す。合馬氏二度家主の許に行かれ、修理方督励せらると。余は同氏が果たして家主に通告せしやを疑ひしが、誠意ある態度に感謝、御禮に行って貰ふ。向いの秀雄ちゃん来たり。事務室の小包を甲より乙に移動、活動力頗る旺盛に驚く。坊やは手を拱して見て居る。秀雄ちゃんの母君より菓子一ヶ貰ひ喜ぶ。朝より休みなく食ひ続けなり。余、坊を廊下にて駄足数回、かなり疲労せしむ。午後湯に行き、飯途眠りて来る。6時より睡り続け。

昭和17年9月20日（日）

朝より降雨。雨漏りに付いては、家主に於いて人に手配をして呉れることに決定せし以上、横田の前の左官職に昨日人を頼みに行つて貰つた際、先方が適当な人を世話して遣ると承知して呉れた以上、何とか挨拶して置く必要がある故、ミワさん此日断りに行かる。午後零時過ぎ、坊やの眠入り居る際、甚十郎さん来らる。ミワさん、母堂に成子さんから来た手紙を読み聞かせて居りし際とて、夕食の副食物を仕入れに魚の辻に行かれしも、何もないので林より鰻を求め来らる。夕食後湯に行かる。坊は7時前寝かす。此の朝道子より手紙あり。山根氏に200円、峯に100円送金方申越し、直ちに手配したるに付き、山根氏に250送金となる。500円の残100円に過ぎず云々。

昭和17年9月21日（月）

朝来降雨。雨漏り。為替仕事出来ぬ位。格子窓の方は窓際に馬穴二つ据え、机を引き柵の手前に居る有様。午

後より歇む。頗る寒く冬シャツに改む。甚さん朝7時33分
発にて宇の島に行かる。此日大阪に販る由。朝、資金請
求。中津局行き。栄町局長居らる。局長自身為替を扱い
居らるる由。午後1時、坊を抱え駅に遊ぶ。昨、野辺良
助へ漸く手紙を書く。本朝一号結束。手紙はなかなか書
けぬものなり。

昭和17年9月22日（火）

午前9時20分発耶馬溪線にて、禅海の供養を営む旨、
新聞報導あり。恰も此日久方振りに快晴となる。母堂を
連れ、お握りを造りて、9時発洞門まで往復切符を求めら
る。午前中、坊やが居らぬので頗る暢適（ちょうてき）。
然るに午後より曇り、雨雲さえ拡まる。一時の汽車にて販
着さる。供養は24日に延期となる。お茶飯椀、耶馬溪
焼き盃等求め来らる。鶯を配したピーピ、淳坊の為に一
個求め来らる。3時神詣で。此日峯敏子さんより、貢の
取り調べ済み自由に面会出来ることになり、山根氏も面
会下され、至急保釈を申請するとあり。28日峯氏判事と
面会の筈にて、主人も承諾さるとの手紙にて、それに付
いても神様にお届けするとて、母堂と一緒に行かれしが、
途中如何なる機会かよろめきて水槽に額を打ち、又溝の
中に落ち込まると。幸に額の小傷位で異状なきを得、安
心せしも飛んだ災難なりし。

昭和17年9月23日（水）

午前中晴れ、11時頃より曇り。3時頃より再び晴れ渉る。
菓子を求め来らる。保険料受入報告に対し不明瞭の向き、
中津局に尋ねに行かれたる。事務室内に没頭し居られ、
夕方ウドンをする約なりしも、静療中の母堂を煩わすこと

となる。此朝ウドンを庭に乾かす。虫が付き居る為なり。鼠公良き獲物と思ひしか、失敬し半握り程落として置く。余、遂に内に取り込む。

昭和17年9月24日（木）

秋季皇霊祭。糊に黴が生えたるを以て、襖の破れを繕ふ。朝食夕食の残り、及び粥を頂く。足袋を補修す。驢（やが）て午後より、北野氏に手紙を認む。此日快晴。羅漢寺へ巖、和博と悦子を連れ行く。ミワさん菓子を包み与ひらる。夕食時、南瓜団子（メリケン粉にて）頂く。これは彼岸の中日は仏様に何を供えるものかと問ふた処、小豆飯、団子等なるが、小豆は今売り物にないから団子と云ふ処だがとあり、さて南瓜団子に変化したるものらし。

昭和17年9月25日（金）

快晴。旻天（びんてん）高く澄むの形容を其の儘、外出すれば気爽やかなり。葉書売竭（つ）くし、一万請求す。午後ミワさんを連れ余八千、ミワさん二千持来る。午後電報あり。貢、峯の家に入るとあり。愈々保釈となりしものらし。委細手紙とあり。ミワさん電報来れる際、不在。販りて之を示せば、其の儘神様に行き、夕食遂に六時近きに延ぶ。無罪にでもなった積もりらし。7時頃、和博鮮魚を提げ入り来る。久子悦子も来る。巖が釣り来たりしもの。鰻も小さいながら居る。9時半より料理され11時に及ぶ。和博等、賑やかに集ふ態に坊も上機嫌。ミワさん久子と対談する少時の間に、坊二階に上がりかけ四五段目に至り、和博も上がりつつ何かしたるらし。坊の注意欠如たるに乗じ、之に触りしか、遂に墜落。大いに泣く。怪我はせぬらし。

昭和17年9月26日（土）

曇り勝ち。坊やの小便に汚れた敷き布団、寝巻等乾かしたるも、乾くか懸念さる。午前中一時降雨したるも、間もなく歇む。干し物は大部分燥（かわ）く。気温も降下。朝夕食事に、ミワさん料理の魚の煮付けを頂く。夜蚊遣り香を少時燻（くす）べ、蚊帳を吊らざりし。巖は今回、貢の保釈に対し、慶祝の意味にて百円贈ることとせし由。久子より電話あり。中津局より積立募集員二人来たり色々話す。余之に對手す。奥家さん今日、退職挨拶に立寄らる。午前中経費来たり分配を了す。予て家主より頼み置ける屋根職来たり、屋根の雨漏り場所を修繕せり。尚ブリキ屋を同伴し、共力を得ねば、完全に竣工せざる向きに対し、其の手配に及ぶべき旨通告して去れる由。花屋庄さんを訪ふて、積立貯金未加入者に対する奨励、及び国債払込み金回収方、懇願す。

昭和17年9月27日（日）

快晴。午前7時36分、都の城聯隊に召集、市内16名。駅前瀬口氏息（門司鉄道局在勤）も召集、出発。国旗掲揚、歓送。此日二つの重大事件あり。一は巖が百円送金に感激し、母堂にも同額送金せしめたき念願から、従来秘匿し得たる貢拉致事件を口外し、母堂に通告し、母堂より泣いて余に禮を云はれぬことに驚愕（きょうがく）したること。一は坊や葉書を便所の手洗い鉢に入れ居るうち、足を滑らし大きな石に後頭部を打ち、脳貧血か脳震盪かを起こしたこと。後者は早速、清松医に行きたるが、頭を冷やせば可なりとありて冷やす。正午の牛乳は飲み其の儘眠りたるも、過半嘔吐、吐瀉す。遭難当時、

余は櫓の葉が邪魔故、片寄せて居た際、ミワさんが坊やが転落したと告ぐ。直に起こしたる際は泣き居たるが、次第に泣かず青白くなり、眼は眠りを誘われた如く開かず。瞳孔が上に吊られ、如何にも危険な様相を呈して居るに初めて驚き、神酒を口に入れ水を与ひなどし、清松に趨（はし）りしもの。夕方までには幾分癒りし。曩に梯子段より墜落のことありて、四五日を経たるのみ。胸の動悸容易に静まらざりし。

昭和17年9月28日（月）

昨夜坊や頭痛でもしたるか、外出先（駅方面）より来たりても泣き歇まず。寢床に入れ仮眠後恢復せるか、平常通りになりたり。此朝起きかけも異状を認めず。後頭部と脚のももに腫物全癒せず。或いは此の部に痛みを感じるやも不図（はからず）、薬を附けて遣る。切手類請求。現金納付はミワさん、請取りもミワさん行く。森久より五百円印紙請求あり。庶務は差支えなければ、明日にせよと云ふ。余、三百八十円保管ありと森久に答え、実際は其の半数に過ぎざるを発見。更に庶務に諒解を求め、三百五十円（他より百五十円求めたる由）分持行く。馬鈴薯、パン等求め、綿も求め来らる。

昭和17年9月29日（火）

朝の内、好晴を期待さるる天候なりしが、午後より雷雨。坊やの敷き布団、向い側塀に乾かしたるが、遂に気付かざる間に濡れたり。恰度巖が来たり。色々話あり。中村氏（長崎）より返事来たりし内容に付いても、松吉氏より話ありたる由。敢えて、顔美しきを望む次第でもなさそうなり。久子の蒲団持行く。坊や愛国パン一ヶ食べ了した

るところに、巖も亦二ヶ手に入れた由にて、一個坊やに遣り、食べ飽きたか粉末を振り散らす。

昭和17年9月30日（水）

29日の記事は全部、30日分に該当しあり。貢氏より速達にて詳細通知越せり。続いて敏子さんよりも書面あり。目下峯方に居り、仕事は峯が別に事業を起こす由にて、其の管理を貢に任す計画あると。更に、従来従事し居りたる仕事に復職出来るらしと。二つの方途が考えられて居る旨、申越す。何れにしても家がないから捜して見付かり次第、道子や坊やを引取ると云ふ・・・29日森久より印紙五百円要望あり。余、五円印紙三百五十円ありと誤認したる為、更に三百五十円分請求越せるも、実際は其の半数に過ぎざる為、庶務に請求（時間外となりたるもの）。特に承認して貰ひ、現金納付及び現品受領共、ミワさんやって呉る。而して現品は直接森久に持ち行かれ、代償的ガーゼ脱脂綿を求め来らる。道路、窪地に土盛り初まる。